

## 事業所ヒアリング実施報告

## ①サルーンもとまち

- 民生委員の活動をサポートする活動を実施。
- 活動地域内が異なる地域包括支援センターで分断されており、活動しにくいことがある。
- 地域の活動に参加できない高齢者がいる。身体が不自由な人に対しては、ミニサロンの開催を検討中。
- 移動支援が必要。

## ②特定非営利活動法人 US

- 2004 年設立。
- 自治会などに関係なく、集まれる場所をつくることが法人の目的。
- 本庄市街だけでなく、児玉や所沢にも利用者がいる。
- クラブ活動のほか、会員同士での助け合い活動（軽作業）を実施。イベントではなく、日常を大切に活動している。
- 会員数は現状維持を想定しているが、他地域でも同様の活動を考えているのであれば協力したい。US の活動を知っている人の存在が大事。
- 商店街の中に拠点を構えているが、運営スタッフに地元の人がいたことが定着の要因の 1 つ。
- 運営スタッフの高齢化が課題。自分たちの力で自立することを基本としており、一過性の支援は不要と考えている。

## ③特定非営利活動法人チーム F

- 平成 21 年 4 月に設立。
- 協働のまちづくりをスローガンに掲げる本庄市に呼応する形で、NPO 法人として形成。
- 当初は 20 名が参加していたが、現在は 13 名。
- まちづくりのサポートを目的としており、生活支援体制整備事業や「お口の健康体操」普及事業等に協力している。
- 会員の高齢化、アフターコロナにおける活動の立て直しが団体の課題。
- NPO の連絡協議会が重要。
- 自治会長のなり手がいない。時代に合わせて自治会のあり方も変化していく必要があるのでは。
- 元気な高齢者が高齢者を支えていく関係性が必要。
- 高齢者が困っていてもアラートを上げられない関係性が高齢者福祉の課題の 1 つ。
- 在宅医療も、医療従事者の善意によって実現している状態で、体制自体は希薄。